

中国の経済発展をどうみるか

2007年5月8、15、22日

東京大学総合文化研究科・教養学部

学術俯瞰講義「人類社会の将来とサステナビリティ」

各論2 「持続可能な開発」の課題

講師：中兼 和津次（青山学院大学）

「†:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。引用情報のない図版は、著作権フリーなもの、あるいは講演者の有する著作物の中から引用されたものです。」

この講義の狙い

- 改革開放以後の中国経済成長の実績
- 中国経済発展の特色：発展の標準パターンや開発経済論との比較で考える
- 中国経済の抱えるいくつかの難題
- 中国経済成長の持続可能性
- 中国の経済発展や体制移行をどう考えるか

序論 中国経済を学ぶことの意味

- なぜ中国経済を学ぶのか？
- 中国経済が日本や世界経済にとって重要だから？
- 中国が脅威だから？
- 経済開発の実験場として
- 体制移行の実験場として
- 総合的、多角的に学ぶこと

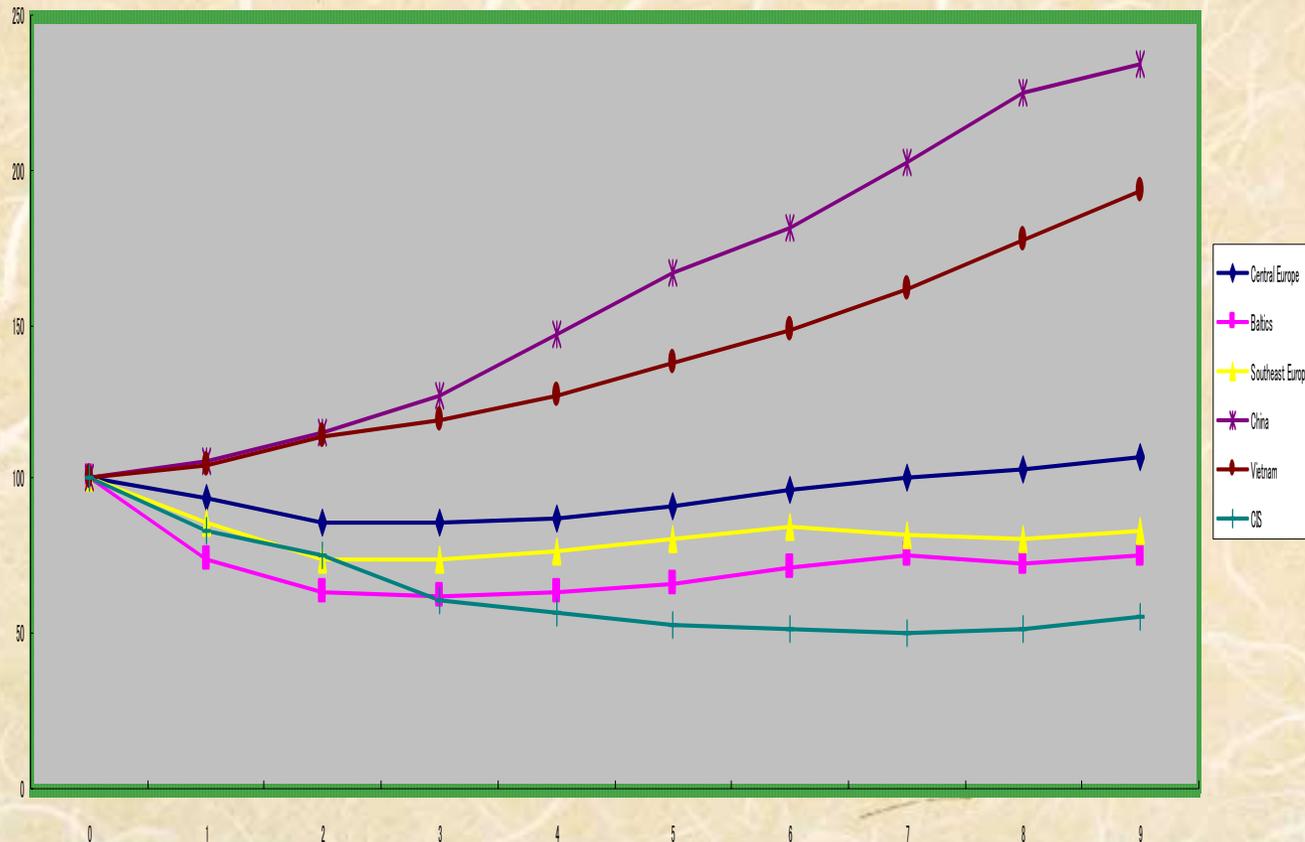
1 改革開放以後の中国経済発展 の実績

- まず、成長実績を国際比較してみよう
- 他の移行経済国との比較
- 他の途上国との比較
- ここから何が分かるのか？
- 中国の高度成長：これほど長く成長した国はなかった？

経済成長率による移行経済の分類

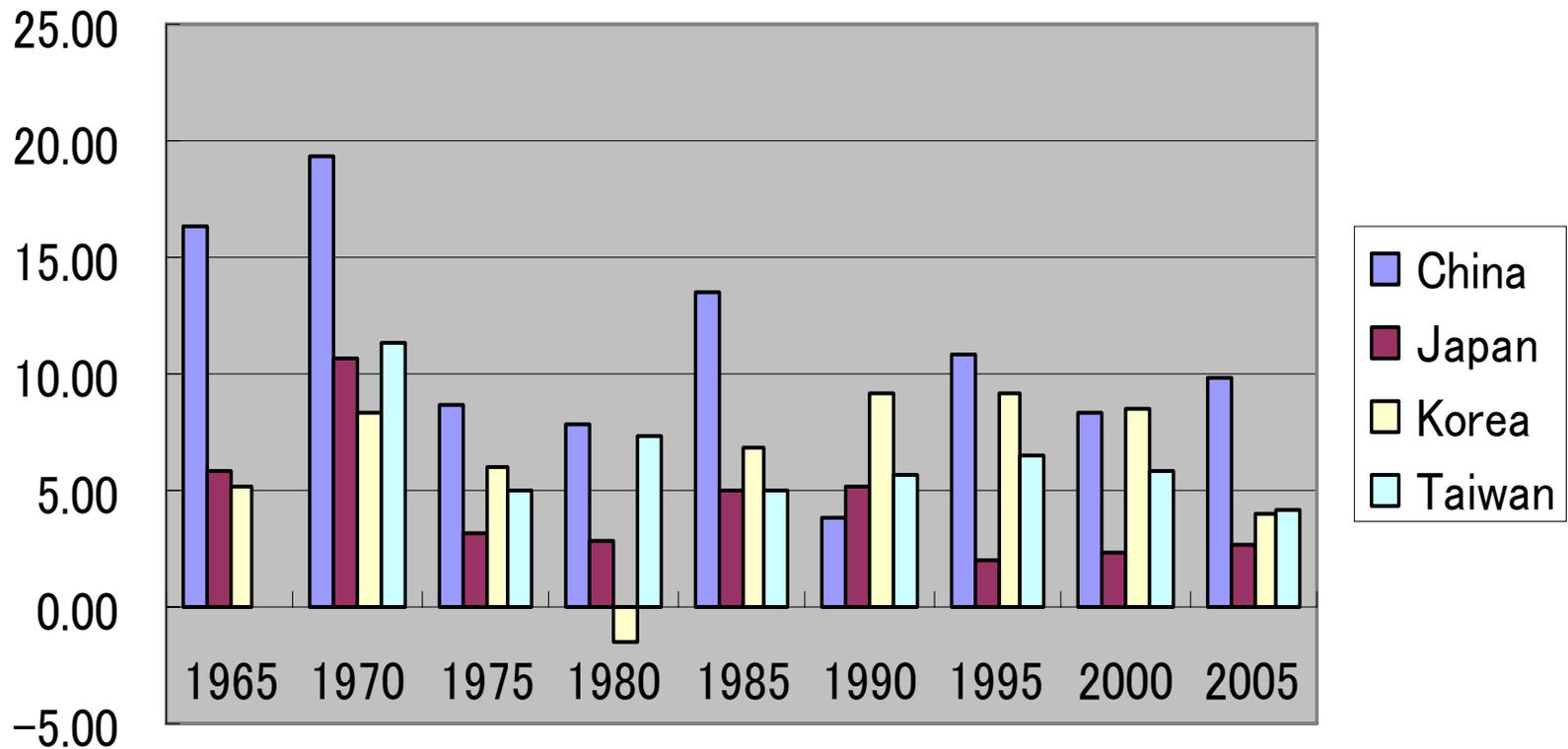
(筆者作成)

GDP Growth in Transition Economies by Country Group (transition Time)



東アジア諸国の成長率(筆者作成)

Growth Rates Compared (Japan, Taiwan, Korea and China)

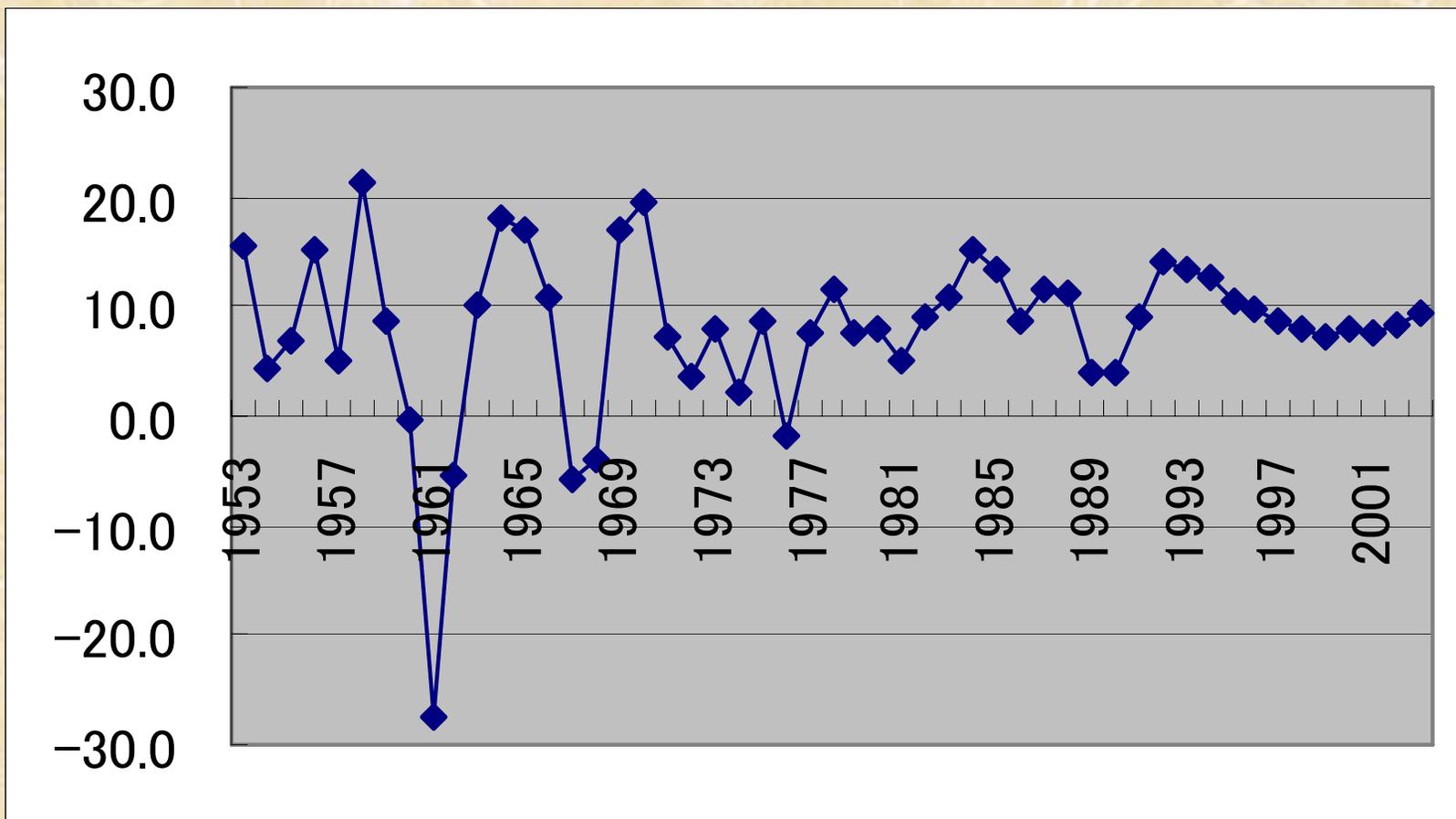


改革開放以前（毛沢東時代）と比べてみると・・・

- 1978年以前と以後とを比べてみると・・・
- 成長率は上がり、変動が小さくなった
- 成長の源泉が違う
- 産業構造の変化
- 効率性の向上
- 外向的发展：輸出や海外投資の役割の増大
- 格差の拡大

中国経済の長期成長率変動(%)

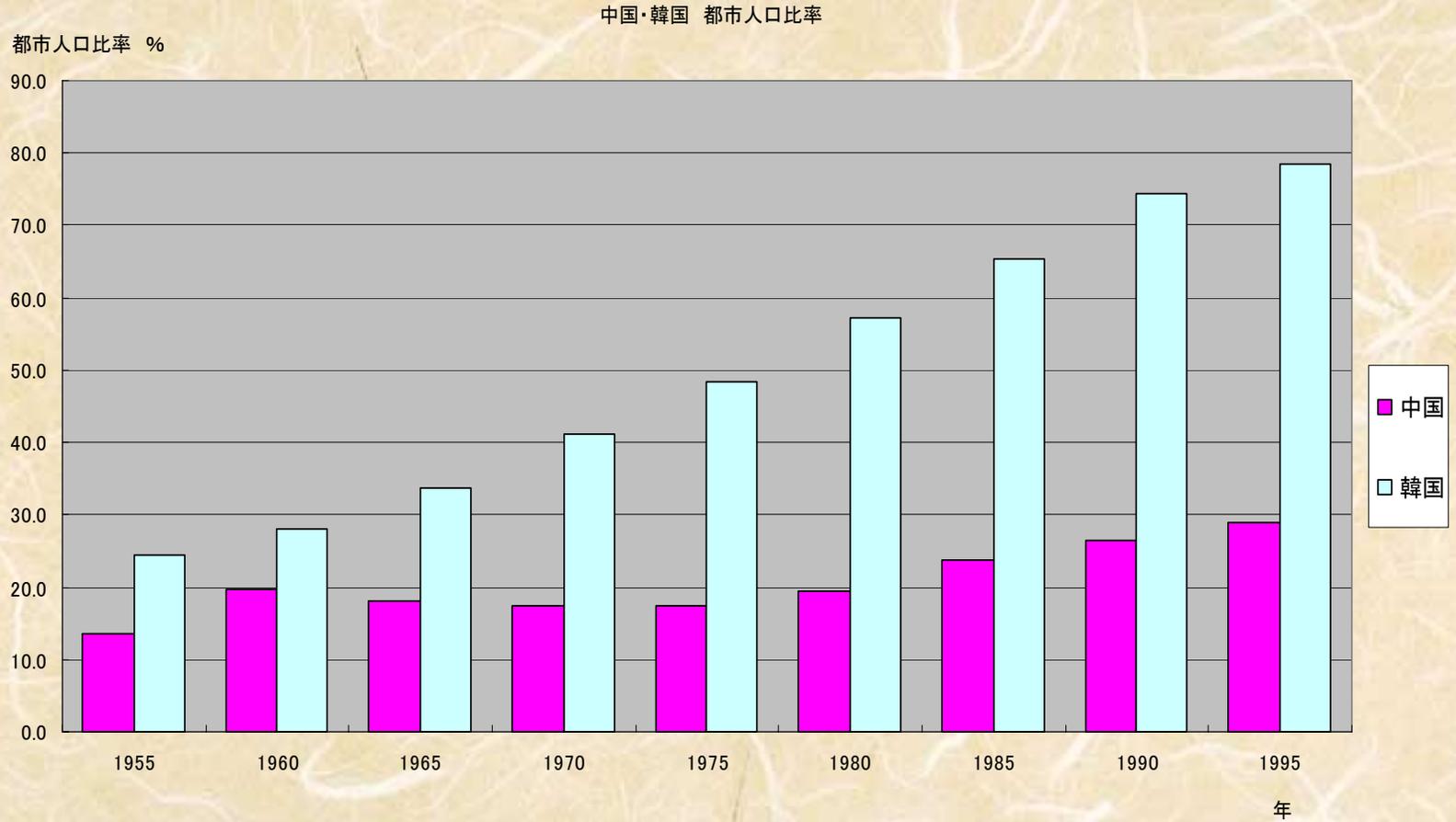
(筆者作成)



都市化の推移

- ここで都市化率（総人口に占める都市人口の比率）を取り上げ、その推移を見てみよう（図参照）
- ここから何がいえるだろうか？
- 毛沢東時代の都市化抑制
- それを可能にした戸籍制度

都市化率の推移：中国と韓国の比較



2 中国経済発展の特色

- 経済発展 (development) とは何か？
- 成長と構造変化
- 狭義の発展と広義の発展
- 発展の標準パターン (standard patterns) とは？
- 標準パターンと開発モデル

開発モデルと命題(1)

- 経済開発論でよく知られたモデルや命題を取り上げてみよう
- たとえば・・・
- 1) ペティ=クラークの法則: 産業構造は、経済発展とともに1次産業から2次産業へ、さらに3次産業中心に変化する

開発モデルと命題(2)

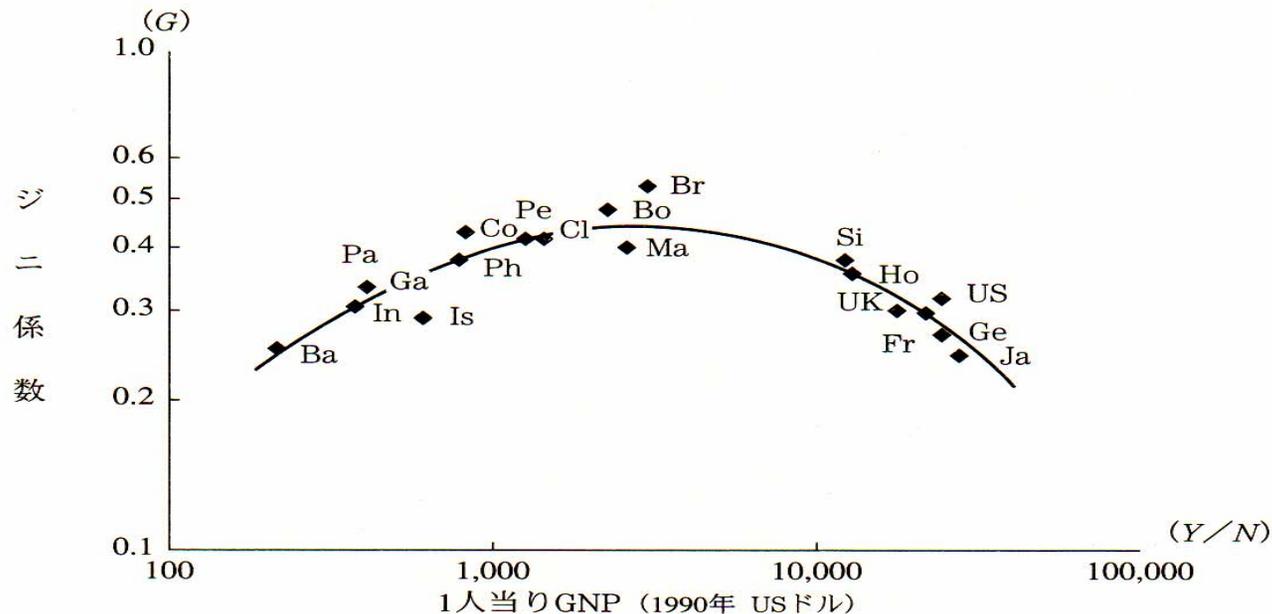
- 2)ルイスの二重構造モデル:労働過剰経済では、伝統部門(農業)から近代部門(工業)へ余剰労働が一定の制度的賃金により移転することにより発展する
- 伝統部門で余剰労働力が無くなったとき、経済は転換点を迎える

開発モデルと命題(3)

- 3)クズネッツの逆U字仮説:所得分配は、発展のある段階まで不平等化するが、それを過ぎると平等化する傾向を持つ

クズネッツの逆U字仮説

(速水佑次郎『開発経済学(新版)』創文社、2000年、193ページより)



Ba	バングラデシュ	(.25)	Pe	ペルー	(.44)	UK	英国	(.33)
In	インド	(.31)	Cl	コロンビア	(.44)	Fr	フランス	(.33)
Pa	パキスタン	(.34)	Bo	ボツワナ	(.50)	US	米国	(.35)
Ga	ガーナ	(.34)	Ma	マレーシア	(.42)	Ge	ドイツ	(.30)
Is	インドネシア	(.30)	Br	ブラジル	(.54)	Ja	日本	(.27)
Ph	フィリピン	(.39)	Si	シンガポール	(.40)			
Co	コートジボアール	(.44)	Ho	香港	(.38)			

図 7-2 家計間における所得分布の国際比較 (国名カッコ内はジニ係数), 両対数目盛

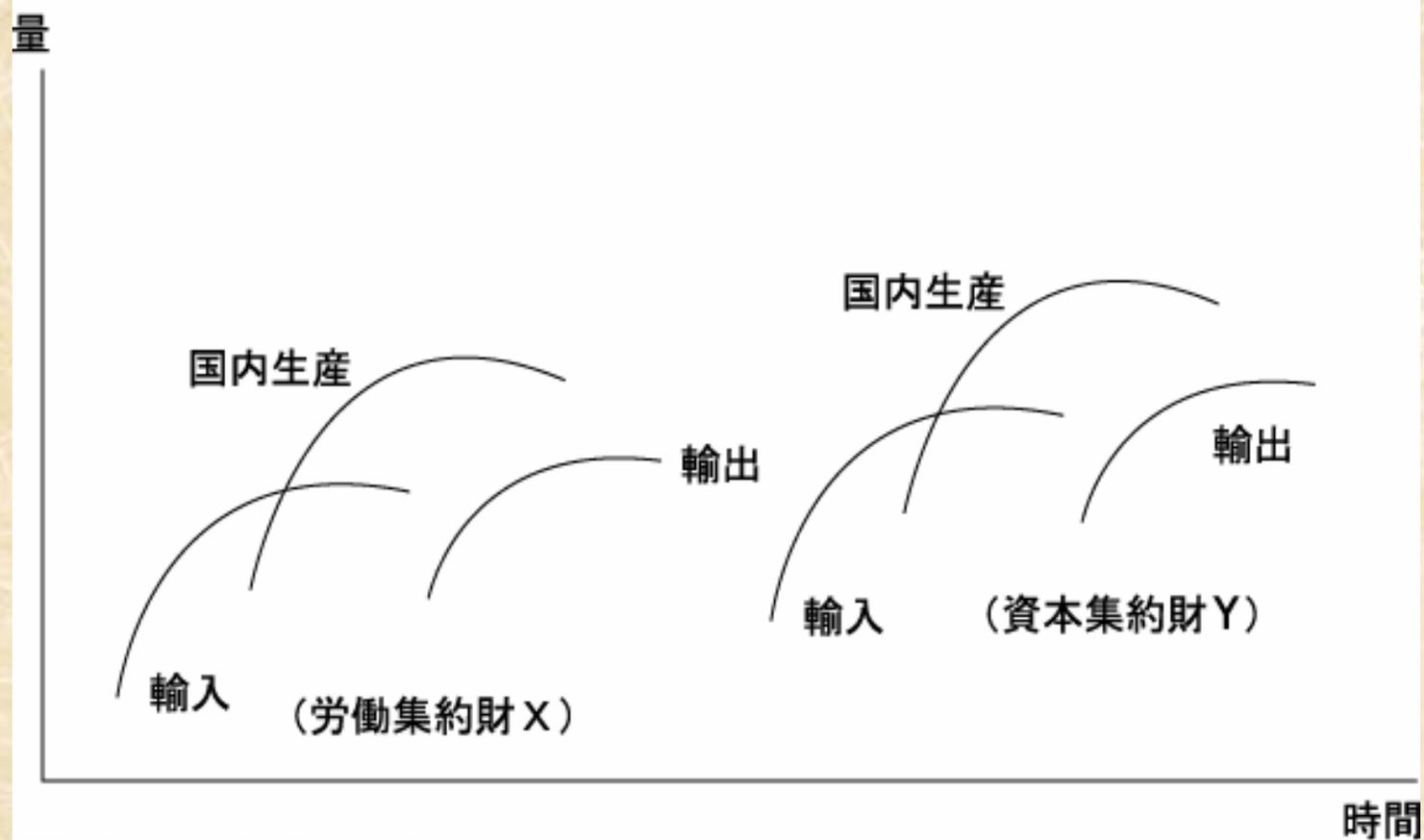
出所) World Bank, *World Development Report*, 1992, World Development Indicators Table 1 and 30. ジニ係数は5分位データより計算。5分位データの基礎となる家計調査は1970年末から1980年代にかけておこなわれた。具体的年次はWorld Development Indicators Table 30

開発モデルと命題(4)

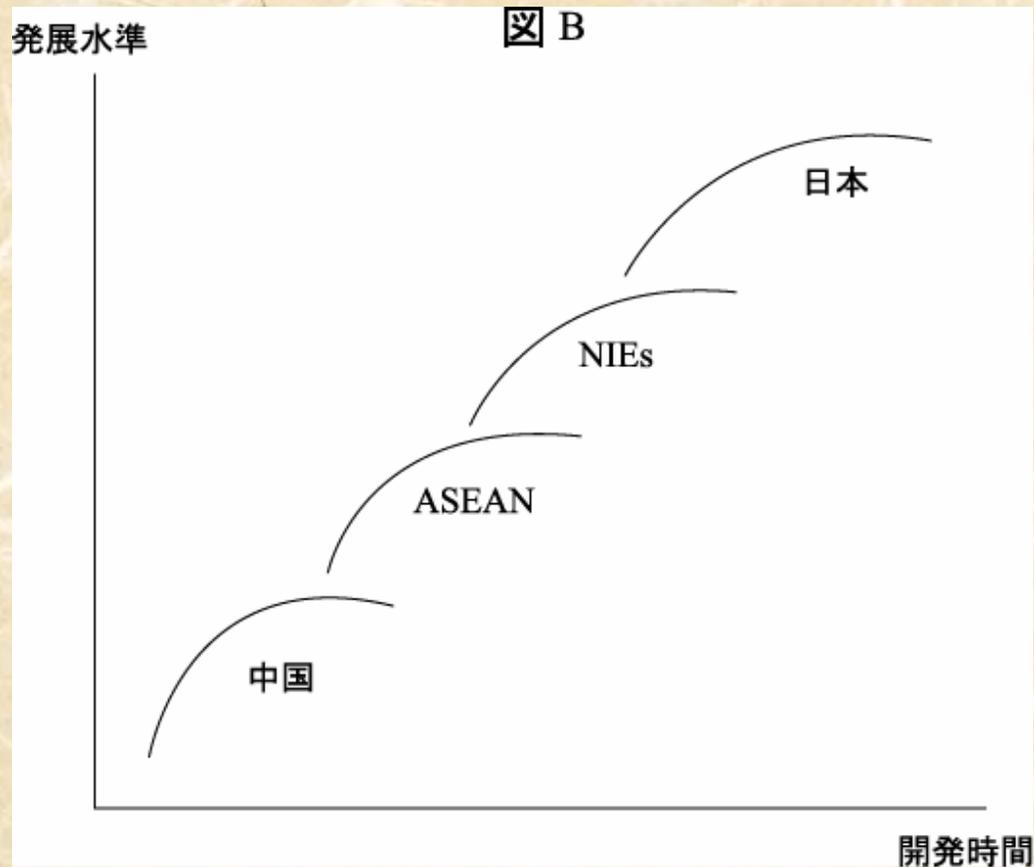
- 4)雁行形態論:産業発展は輸入から国内生産へ、それから輸出へ、また消費財から生産財へと比較優位の変化とともに移行する
- 国ごとに見れば、後発国は先発国へキャッチアップする連続的発展のパターンが見られる

雁行形態的發展

圖 A



重層的追跡（キャッチアップ）過程



開発モデルと命題(5)

- 5) 開発独裁モデル: 開発の初期には市場経済とともに独裁的政治体制が必要だか、発展すれば民主化されていく
- 有能な官僚、効率的な意思決定による計画的経済発展
- 開発主義 (developmentalism) の思想
- 台湾や韓国における成功経験

開発モデルと中国の現実

- これらのモデルや命題は中国の発展過程を説明できるか？
- われわれの解釈：基本的には有効だが、さまざまな修正が必要
- なぜ修正されなければならないのか、その背景や根拠を確かめることが重要

ペティ=クラークの法則と中国

- 生産額で見ると農業の比重は低下、しかし農業人口の減少は遅い→なぜ？
- 毛沢東時代の農業重視政策（「農業基礎論」）
- 重工業優先発展論
- 戸籍制度の存在→農民を土地に縛り付けてきた

ルイスの二重構造モデルと中国

- 豊富な低賃金労働力とそれによる郷鎮企業と外資企業の発展：改革開放以後の中国経済発展の源泉
- 農村からの労働供給は「無限弾力的」か？
- 最近上がり始めた沿海部の農民工（出稼ぎ労働者）の賃金
- しかし、いまなお存在する膨大な農村過剰労働力

クズネッツの逆U字仮説

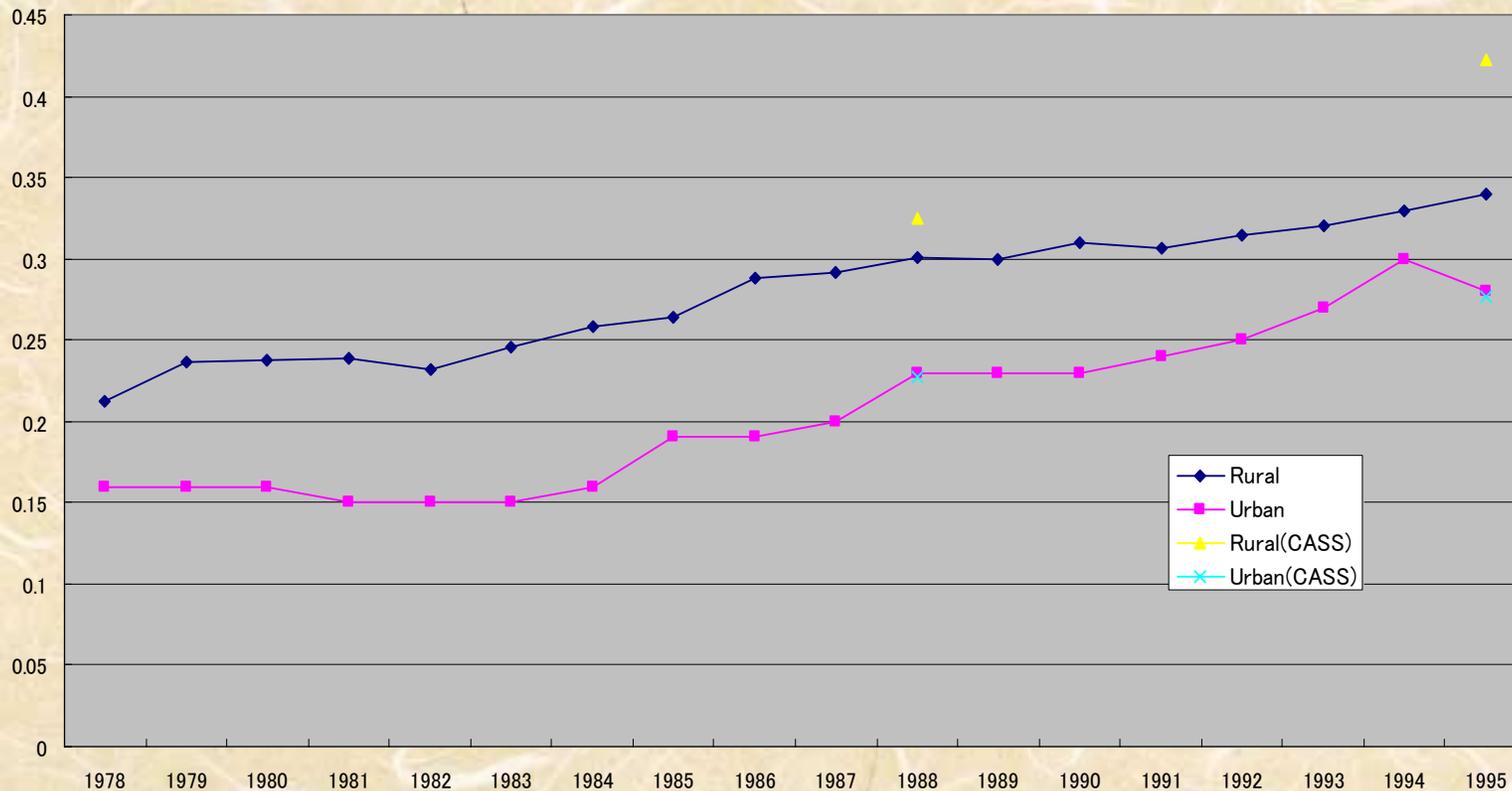
- この仮説にかんする数多くの実証研究
- 必ずしも支持されない
- 中国の現状はどうか？

中国における所得分配の推移

- 悪化する(拡大する)所得格差
- 都市内、農村内格差
- 都市農村間格差
- 地域間格差
- 日本の方がはるかに「社会主義的」!
- 中国はクズネッツ仮説の第1局面に?
- 出来上がった二重構造

都市・農村内格差（公式推計と独立推計）（筆者作成）

Gini Coefficients, 1978-1995 (official statistics)

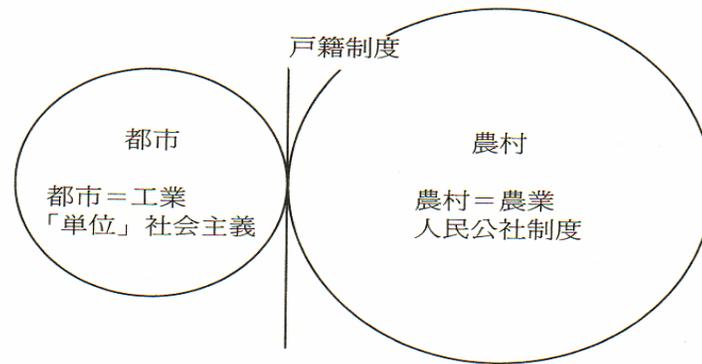


都市農村の二元構造

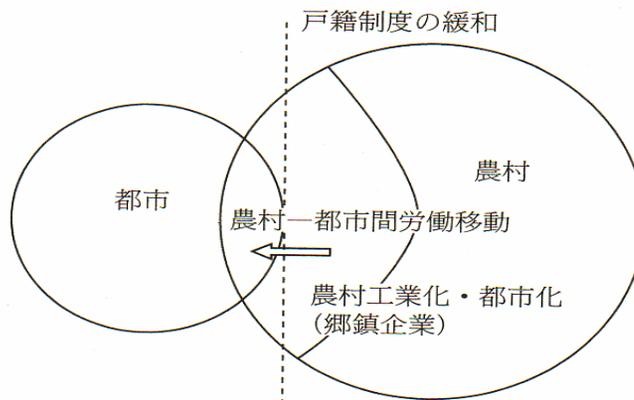
(佐藤宏『シリーズ現代中国
経済第7巻所得格差と貧困』名古屋大学出版会、2003年、11ページ)

図 1-1 都市—農村関係の概念図

計画経済時代 (1950年代末~70年代末)



1990年代末



出所) Knight and Song (1999), 341 を元に加筆。

雁行形態論と中国

- 中国の産業発展は、輸入から国内生産へ、それから輸出へ、また消費財から生産財へと発展していったのだろうか？
- 毛沢東時代の自力更生主義→最初から国内生産
- 重工業優先政策→最初から生産財工業の発展
- 輸出財の構成も、消費財から生産財へ比重が変わっていったのだろうか？
- 雑貨から自動車まで